

科目名	日本語学特講	担当者	イオリ 庵 イサオ 功雄	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	現代日本語の統語論の基礎的知識をまとめ、実際の言語現象を分析するための基礎的な能力を身につける。		
到達目標	前期は、「ヒトの言語の特徴」「音韻論」「形態論」「格」、「主題と主語」「ボイス」「自動詞と他動詞」に関する基礎的な知識を身につけ、それにもとづく分析を行う。 後期は、「テンス」「アスペクト」「モダリティ」「とりたて」「複文」「名詞修飾」「「は」と「が」」「のだ」「談話・テキスト」「敬語」に関する基礎的な知識を身につけ、それにもとづく分析を行う。		
学修方法	<p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 基本教材1を読んで、「言語（記号）の恣意性」「音素と異音」「格」「自他の対応」について、必要に応じて例を挙げながら、それぞれ1,000字以内で説明する。 別途メールで指示する課題に関して、自分なりの分析を加えた結果を提出する。 <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 基本教材2を読んで、「テンスとアスペクトの関係」「格助詞ととりたて助詞の違い」「内の関係と外の関係の違い」について、例を挙げながら、それぞれ2,000字以内で説明する。 別途メールで指示する課題に関して、自分なりの分析を加えた結果を提出する。 		
スケジュール	<p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> レポート課題1の草稿の締切6月12日、<この間、レポート課題2の指示およびレポート課題1のフィードバック>、最終締切7月末 レポート課題2の草稿の締切8月末、<この間フィードバック>、最終締切9月課題提出締切日 <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> レポート課題1の草稿の締切10月末、<この間、レポート課題2の指示およびレポート課題1のフィードバック>、最終締切11月末 レポート課題2の草稿の締切12月18日、<この間フィードバック>、最終締切1月課題提出締切日 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	最終レポートの内容による
	平常評価	30%	フィードバックに対する修正の内容による
履修者への要望	言語学の学習がはじめての人には少し難しいかもしれませんが、頑張って課題に挑んでください。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 著者名：庵 功雄 教材名： 教材名：『新しい日本語学入門（第2版）』（スリーエーネットワーク，2012年） ISBN:978-4-88319-589-3 2,000円+税
	現代日本語に関わる諸現象を包括的に扱った本で，現在最もよく読まれている入門書である。
参考図書	1. 寺村秀夫(著)『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』(くろしお出版, 1982年) ISBN:978-4-87424-002-1 3,800円+税 2. 寺村秀夫(著)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』(くろしお出版, 1984年) ISBN:978-4-87424-003-8 3,800円+税 3. 庵 功雄ほか(著)『やさしい日本語のしくみ』(くろしお出版, 2003年) ISBN:978-4-87424-284-1 1,000円+税 4. 庵 功雄(著)『『象は鼻が長い』入門』(くろしお出版, 2003年) ISBN:978-4-87424-278-0 2,040円+税 (オンデマンド版)
履修上のポイント	ヒトのことばの特徴は何か，言語学（日本語学）とは何かから始まり，日本語の音声・音韻，形態（品詞と活用），格，文法カテゴリー，主題と主語，ボイス（使役と受身、授受），自動詞と他動詞について，まず，書かれている内容を自分なりに整理し，次に，レポートの課題を考える。
レポート課題 1	基本教材 1 と参考図書を読み，次の 1) と 2) について述べる。1) 日本語と外国語で分節の基準が異なる語を 3 例以上挙げる（比較した外国語名も記す），2) 日本語文法の主な活用表を比較しその特徴を整理する。 留意点： 基本教材に書かれている内容を具体的な言語現象と対応づけて理解すること
レポート課題 2	別途メールで指示する課題に関して，自分なりの分析を加えた結果を提出する。 留意点： 身近な言語現象を言語学的に分析することを目的とする

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 著者名：庵 功雄 教材名： 教材名：『新しい日本語学入門（第2版）』（スリーエーネットワーク，2012年） ISBN:978-4-88319-589-3 2,000円+税
	現代日本語に関わる諸現象を包括的に扱った本で，現在最もよく読まれている入門書である。
参考図書	1. 庵 功雄・清水佳子(著)『上級日本語文法演習 時間を表す表現—改訂版—』 (スリーエーネットワーク, 2016年) ISBN:978-4-88319-242-7 1,300円+税 2. 庵 功雄・三枝令子(著)『日本語文法演習 まとまりを作る表現—指示詞、接続詞、のだ・わけだ・からだ』(スリーエーネットワーク, 2013年) ISBN: 978-4-88319-648-7 1,300円+税 3. 庵 功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(スリーエーネットワーク, 2001年) ISBN:978-4-88319-201-4 2,400円+税
履修上のポイント	テンス，アスペクト，モダリティ，とりたて，複文，名詞修飾，「のだ」，「は」と「が」，談話・テキスト，敬語，方言，バリエーションについて，まず，書かれている内容を自分なりに整理し，次に，レポートの課題を考える。
レポート課題 1	基本教材 2 と参考図書を読み，「テンスとアスペクトの関係」「格助詞ととりたて助詞の違い」「疑問文・否定文における「のだ」と平叙文における「のだ」」について，例を挙げてそれぞれ 2,000 字以内で説明する。 留意点： 基本教材に書かれている内容を具体的な言語現象と対応づけて理解すること
レポート課題 2	別途メールで指示する課題に関して，自分なりの分析を加えた結果を提出する。 留意点： 身近な言語現象を言語学的に分析することを目的とする